

2014年度 自己評価公表シート

1. 学校（園）の教育目標

<ul style="list-style-type: none"> ・適切な環境の中で心身の発達を助長する。 ・年齢、成長に応じて基本的な生活習慣を確立する。 ・一人一人の個性を認め、「安心」「自信」「自由」を保障していく。 <p>※ 教育重点目標・・・「知・徳・体の根っこづくり」</p>

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

<p>学校評価の主旨を理解し、自己点検・自己評価を実施することによって、教職員自らが客観的な目で自園の教育・保育を振り返り、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくための姿勢を身につける。</p>

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組内容	結果	理由
1	保育の計画性	B	園の教育方針を基に特色ある教育を活かしながら、子どもの実態に合わせた保育計画をたてるように努めた。
2	保育の在り方 幼児への対応	B	子どもの思いを受け止めたり共感したりすることを大事にした。また、一人一人の子どもの困り感やつまづきを捉えた言葉がけに配慮した。
3	教師としての資質や 保育の質の向上	B	園の教育方針に則り、意欲的に保育に努めているものの、新たな知識の獲得については個人差があり、個々の努力に期待したい。
4	保護者への対応	B	保護者からの要望や子どものトラブル、けがなどについて必ず園長の指導の下、保護者への対応を行った。 「相談、連絡、報告」を園全体で取り組んだが、十分に伝えきれないケースがあった。
5	地域の自然や社会 とのかかわり	B	五感を通して季節を感じられるように園外保育を多く取り入れる中で、自然や地域にかかわった。また、地域との交流ができるよう機会があれば積極的に場に参加した。
6	研修と研究	B	年間の園外研修にはパートタイムの職員も含めて全員が参加できるようにした。また、園内研修で、研修したことを報告したり実践したりした。
7	安全管理	B	定期的に安全面、衛生面の点検を行いその都度、改善を行った。「ヒヤリハット記録」を作成し、記録するとともにその原因を把握し改善を行うようにした。
8	子育て支援や 預かり保育の充実	A	オープンデーでは毎回、内容を工夫しあそびの提供を行うとともに、保護者が子育てについて話しやすい雰囲気づくりに努めた。 保育園部の保育時間に合わせて、幼稚園部も年間を通して長時間の受け入れができるように努力している。その中で、預かり保育の時間は家庭的な場づくりに留意して、異年齢でかかわりながら子どもに負担のない内容にしている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的評価結果

結果	理由
B	<p>○自己点検・自己評価に取り組み、職員一人一人が自分の保育やクラス運営を振り返ることで、園全体を見つめ直す良い機会となった。 それぞれの評価項目についての課題意識には個人差があり、園全体の課題として捉え取り組んでいく必要がある。</p> <p>○職員会や園内研修などの時間がなかなかとれない実態があるが、開始時刻を遅くすることで全員参加で行っている。園外研修については、全職員がいずれかの研修に参加できるように努めた。平日の参加には限度があるため、園内研修で報告をすることで学びを共有できるように努めた。</p> <p>○保護者アンケートの結果から、園の取り組みについて、どの評価項目においてもおおむね肯定的な評価を得られたことがわかる。問2、3、4の結果について、子どもたちの様々な生活習慣は、園と家庭とで共通理解のもと実践しなければなかなか身につかないということが言える。今後も園が継続して取り組んでいくとともに、保護者の理解を更に得られるような働きかけをしていくよう引き続き努力していきたい。</p>

【評価の基準】

A：十分に達成されている B：達成されている C：取り組みはされているが十分ではない
D：取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
認定こども園として体制の見直しをする。	子ども・子育て支援新制度施行に向けて、教育・保育及び保育環境の見直しをする。
職員の共通理解を深める。	今年度の自己評価について職員全員が園全体の課題として捉え、しっかりと話し合い、共通理解をして課題に取り組んでいく。
安全管理に努める。	安全面・衛生面について意識した保育環境をつくるために、日々の点検や掃除などに努めていく。 毎月の避難訓練ではあらゆる場面での想定に基づいた訓練を行うようにする。
保護者会との連携を図る。	子どもを中心に園と家庭とが協力して取り組む